

# 県 外 派 遣 報 告 書

栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	第37回関東ブロックスポーツ少年団交流大会	開催地	山梨県
報告者名 (所属連盟)	仲井 順、新島 薫、田中由紀子 (ミニ連)	派遣期間	平成30年7月27日～29日
参加者 (所属都県)	講師：山梨県バスケットボール協会 審判長 河野 仁氏 同 副審判長 手塚 清孝氏 同 審判委員 丸山 淳氏 同 審判委員 佐田 幸一氏 関東ミニ連ブロック長：山野辺 智晴氏 各都県派遣審判員(敬称略、順不同、◎は審判長、○は副審判長) 千葉県◎相木康岳 遠藤英輝 河名美津子 東京都○管祐介 金井竜也 吉田弘 埼玉県◎小泉登 金井大樹 福田忠司 神奈川県○長井章 鴨崎征臣 赤堀朝幸 群馬県◎中島孝博 荻野崇 清水汐美 茨城県◎飯島 祐紀 三本木篤史 松崎か 栃木県◎仲井順 新島薫 田中由紀子 山梨県◎大木裕一 ○深澤雅俊 ○羽田由信 堀内 智則 渡辺司 内藤敦子 斎藤遼 遠山照利 渡辺伸一 山本恵一 藤田努 萱沼美穂 林祥吾 小林 克次 丸山昇 堀内勝男 高村淳 大木沙織 斎藤和夫 渡辺信也 小池佳生		

## 【審判会議内容】

山梨県バスケットボール協会審判長 河野 仁氏  
～プレーコーリング・ガイドライン～

- 1)悪い手・腕・肘の整理 HANDCHECKING含む  
ディフェンスだけでなくオフェンスに対しても整理する必要がある→公平に平等に  
リアクション『反応』ではなくアクション『行った行爲』に対して判定する→シリンダーを超えた物への判定
- 2)スクリーンプレー  
スクリーンが止まっただけで両足が床についた状態でシリンダー内→スクリーン=柱と考える 足の広げすぎ×
- 3)ブロッキング・チャージング  
リーガルガーディングポジション→きちんととれているかを確認する  
ドライブ等のインパクトが大きい触れ合いが起きた場合～…→責任の所在が明確でないと感じるものをノーコールにして終わらせない
- 4)プロテクトシューター  
ジャンプショットのため正当なジャンプをした場合、着地場所を確保する権利がある→シューターを守る(怪我の危険がある)  
オフェンス側プレーヤーがショットをする時シリンダーを超えて～…→シューターのファウルの場合ショットの前か後かで処置が変わる  
為注意して判定する。(ショット前はオフェンスファウルの処置、ショット後はルーズボールファウル)
- 5)アンスポーツマンライクファウル  
クライテリア1→ボールに対するプレーでなく、かつ、正当なバスケットボールのプレーと認められないと審判が判断したプレー  
クライテリア2→ボールにプレイしていても、過度に激しいもの、腕を振り下ろす・体ごとブロックする等、怪我の恐れがある  
クライテリア3→以前は戦術として認められていたようなファウル  
クライテリア3、4→まずは笛をならすことが大切、パートナーと相談してグレードup又はグレードdownもOK  
クライテリア5→笛を入れるだけでなく、スローイン前の声掛けで抑制することも大切
- 6)プレイヤー/コーチのテクニカルファウル  
ゲームを尊重すること→リスペクトのない行爲へは毅然とした態度で判断を ミニこそBTFの心の準備が必要 ミニは2shotになる
- 7)フェイク  
フェイクに対する対応→クルーで共通理解できるよう明確にフェイクのジェスチャーをする
- 8)トラベリング  
止まった状態でボールコントロールしている場合→きちんと止まるということが重要 できないなら技術がないということ

## 【感想・県内審判員へ伝達したいこと】

初日の机上講習では山梨県審判長 河野様からプレーコーリングガイドラインについてお話を頂きました。ガイドラインの考え方や意図、オンザコートでの対応の仕方等をお話して頂きました。大会期間中も何度もガイドラインで理解したことを笛で表現できるように、表現できなかったとしてもこういうことかな、と感じられるようになっていってほしい。と審判員に向けてお話しされていました。今回の講習でガイドラインの理解を深め、オンザコートの判定につなげていくこと、又そのことによって判定の意図が自分の中でより明確になり、ベンチへの対応等、ゲームコントロールができるようになると思えました。各都県審判員の方々も机上講習の内容を考えながら試合に臨まれていました。

県内審判員の方々も、ガイドラインについて周りの方々と話したり、試合を見ながら、レフリーしながら、と様々な方法でガイドラインの理解を深めて頂きたいと思えます。  
私も普段の練習ゲーム等からガイドラインを振り返り当てはめていき技術の理解、ルールの理解に努めていきます(田中)。